



とにかく暑い、余力はまだ

32キロ達成感に酔う

恒例の第7回「ウォーキングラリー」が5月28日に行われた。ことしは500人以上が参加、新緑に包まれた「相模湖～城山～高尾山～浅川沿い～野猿街道～中大」までの32キロを思い思いの恰好で歩き通した。強い日差しの中を、時折り吹き抜ける爽やかな初夏の風。中大に着いた時は、日はとくに暮れていたが、参加者たちは互いに握手したり、抱き合ったり、達成感に浸っていた。

「まさか、まさか」の青空

「とくに城山はきつい」

学生記者
ムニブ シディキ
土井 啓士
(文・写真とも)

前日から叩きつけるような強い雨。天気予報も「あすは雨」。気を揉みながら床に就いた。6時に起きたら雨足は弱まっていたものの、空はまだ雨雲に覆われている。テレビは「これから晴れる」といつている。学生部に問い合わせようと、いくら電話しても「お話し中」。4回目に通じ、「ウォーキングラリーは決行です」と自信にあふれた声が返ってきた。これで出掛ける決心がついた。

8時半頃から相模湖公園駅は日が差してくる。ぞくぞく参加者もやってくる。第1陣が9時にスタートした。われわれ学生記者は1時間遅れのスタートとなった。思わぬ好天に、みんな鼻唄まじり。間もなく城山の登山口に。中大に入学以来、初めて山道を歩くという学生もかなりいる。コースは昨日までの雨で土が柔らかくなっており、慎重な足取りで登りはじめる。坂のきついところではお互いが手を差し延べあい、「皆で登る、登ってやる」という意気が感じられた。

城山山頂に着いた。流れる汗も心地よい。昼食を頬張っているところを見回すと、皆いろいろな恰好をしている。体育会系の空手部、棒術部

員らは空手着やはかま姿。男子が女子高生の制服を着たりしている。日野市から参加した76歳のお年寄りもいる。若い頃は富士登山や大山に登った話をしてくれた。ウォーキングラリーの印象を聞くと、「とくに城山はきついね」と答えてくれた。でも、僕らは「自分がこの方の年になったら、山なんて無理だろうな。すばらしい精神の持ち主だ」と思った。

さあ、気合を入れ直して、次は高



階段も駆け上がっちゃえ

尾山頂だ。しかし、高尾山頂に至る300段の階段にかかると、急に皆が無口になった。高尾山を下ると、第1チェックポイントだ。ここからハーフコース組も加わる。公道をしばらく行くと、浅川べりに出た。気温はすでに28度とか。一部の学生は上半身裸になり、浅川に飛び込んだ

りしていた。

山道とは違い、道はすべてアスファルト。急に足に負担がかかる。川沿いの住民が「頑張れ」「若いねえ」と励ましてくれる。ようやく第2チェックポイントを通過。ここで浅川とも別れを告げ、またも別の公道に。永遠に続く道に、さすがに足取りも重くなってくる。加えて車のスピードとのギャップが僕らを余計に疲れさせる。

間もなく野猿街道に。馴染みのある道路命に「よし、もう少しだ」と思ったら、同行の仲間が「車で通ったことがあるけど、中大まではまだあるぜ」にガックリ。

坂道を駆け足でゴール

少しずつ見慣れた景色が出てくると、僕たちのパワーゲージは一気に回復した。

最後の坂を登り、正門を通ると、多くの参加者はいつせいに力を振り絞ってゴールに向けて駆け出す。ゴール横では中大応援団が気迫のこもった声援を送っている。ゴールだ！「歩いた」という達成感が身

チェックポイントでスタンプを押してもらおう



ジュースを補給してもらっても「もう動きたくない」

体中を覆う。ゴール一番乗りは3時半だったらしい。

多くの運営スタッフが「お疲れさん」と声を掛けてくれた。熱い豚汁とおにぎりが全員に配られ、太鼓やバンド演奏などのアトラクションが完歩者の疲れを癒してくれた。昨年も参加した法学部2年生の女子学生は「充実した週末を過ごせた。来年

もぜひ参加します」と、元気いっぱい話していたのが印象的だった。

卒 卒

学生課の皆さん、学生スタッフの皆さん。すばらしい体験をありがとうございました。改めて御礼申し上げます。

(表3に写真を集めています)